

2025年5月26日

浜松市・公益財団法人浜松市文化振興財団  
(浜松国際ピアノコンクール事務局)

## 第13回浜松国際ピアノコンクール（2027年）審査委員長について

本日開催された浜松国際ピアノコンクール実行委員会において、第13回浜松国際ピアノコンクール(2027年秋開催予定)の審査委員長に児玉桃氏が選任されましたので、お知らせします。

### 第13回浜松国際ピアノコンクール審査委員長 児玉 桃 KODAMA Momo

幅広いレパートリーと豊かな表現力で国際的に活躍を続けるピアニスト。J.S.バッハからメシアンを含む現代作品まで、その演奏は高い評価を得ている。幼少期をヨーロッパで過ごし、ドイツの学校で教育を受けた後、パリ国立高等音楽院にてマレイ・ペライア、アンドラーシュ・シフ、タチアナ・ニコラエワといった巨匠に師事。1991年にはミュンヘン国際コンクールにおいて、最年少で最高位に輝き、その才能を世界に知らしめた。現在はドイツのカールスルーエ音楽大学で教授を務めるほか、数々の世界的コンクールで審査員を務めている。2009年中島健蔵音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。令和4年度には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。現在はパリに在住。  
(プロフィール詳細は次ページ)



© Lyodoh Kaneko

#### <児玉桃氏からのコメント>

第13回浜松国際ピアノコンクールの審査委員長に選任されたことは、とても光栄であるとともに感慨深く思っています。1991年の創設以来、世界で最も権威のあるコンクールの一つになっていますし、2024年に審査員を務めた際の、日本の伝統といえるおもてなしの心、恵まれた出会い、厳格な運営と、コンテスタントと審査員のために準備された並外れた歓迎を懐かしく思い出すからです。このコンクールは、世界中の若い才能が最高のレベルで選ばれるための、真の跳躍台です。

コンクールが開催される特別な期間に、日本国内および海外からの聴衆の方々がますます増えているのは最高の成果で、浜松市は一年を通じて音楽が盛んで活気にあふれていることを考えると、このようなイベントが開催されることも不思議ではありません。またこれらはすべて、主催者とボランティアの献身と情熱なしには実現できなかったでしょう。私は彼らのさらなる成功を心から祈っていますし、2027年のコンクールで彼らとともに重責を果たすことを喜び、誇りに思っています。

音楽の偉大な歴史の中で、素晴らしい才能の発見に貢献できることを願いつつ。

児玉 桃

こだま もも  
**児玉 桃** プロフィール

幅広いレパートリーと豊かな表現力で国際的に活躍を続けるピアニスト。J.S.バッハからメシアンを含む現代作品まで、その演奏は高い評価を得ている。

幼少期をヨーロッパで過ごし、ドイツの学校で教育を受けた後、パリ国立高等音楽院にてマレイ・ペライア、アンドラーシュ・シフ、タチアナ・ニコラエワといった巨匠に師事。1991年にはミュンヘン国際コンクールにおいて、最年少で最高位に輝き、その才能を世界に知らしめた。

以来、ヨーロッパ、北米、アジアの主要な音楽祭やコンサートホールで演奏活動を展開。ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、小澤征爾指揮ボストン交響楽団、モンリオール交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団など、世界一流のオーケストラと多数共演している。また、シャルル・デュトワ指揮 NHK 交響楽団のアジアツアー、オーギュスタン・デュメイ指揮関西フィルハーモニー管弦楽団のヨーロッパツアーではソリストを務めた。

現代音楽にも積極的に取り組み、特に作曲家・細川俊夫からの信頼は厚く、数多くの作品を手掛けている。ルツェルン音楽祭、ウィグモアホール、東京オペラシティ文化財団の共同委嘱による「練習曲集」をルツェルン音楽祭にて世界初演、東京オペラシティにて日本初演。ピアノ協奏曲「月夜の蓮 -モーツァルトへのオマージュ」は、ハンブルクにて北ドイツ放送交響楽団と世界初演、日本初演は小澤征爾指揮&水戸室内管弦楽団により行われ、CD化もされ大きな話題を呼んだ。

ヨルグ・ヴィットマン、ロドルフ・ブルノー＝ブルミエをはじめ、多くの現代作曲家が児玉桃に作品を献呈し、初演を行っている。

CD はオクタヴィア・レコードより「ドビュッシー:impressions」、「ショパン・ピアノ作品集」、「メシアン:幼子イエスに注ぐ20のまなざし」、「メシアン:鳥のカタログ」全集がリリースされ、ヨーロッパでも高い評価を得ている。ECM からは「鐘の谷〜ラヴェル、武満、メシアン:ピアノ作品集」がリリースされ、ニューヨーク・タイムズ、サンフランシスコ・クロニクル、ル・モンド・ド・ラ・ムジーク、仏クラシカ・マガジン、テレマ等で絶賛を博した。2017年にはECM第2弾「点と線・ドビュッシー&細川俊夫:練習曲集」をリリース。さらに、ペントーンより、姉の児玉麻里との連弾によるチャイコフスキー三大バレエ抜粋をリリース。2021年3月にはECM第3弾「細川俊夫:月夜の蓮-モーツァルトへのオマージュ、モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番」がリリースされている。

後進の指導にも力を注いでおり、現在はドイツのカールスルーエ音楽大学で教授を務める。また、エリザベート王妃国際音楽コンクール、ショパン国際ピアノコンクール、ジュネーヴ国際音楽コンクール、ロン＝ティボー国際コンクール、浜松国際ピアノコンクールなど、数々の世界的コンクールで審査員を務めている。

2009年中島健蔵音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。令和4年度には芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

現在はパリに在住。